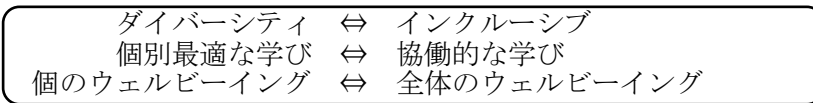


令和6年度学校経営基本方針

三鷹中央学園  
三鷹市立第三小学校  
校長 山下裕司

1 基本理念

経営を支える3つの往還



2 現状の捉え（中間内部評価から） 肯定的評価

- (1) 子ども 主体的・協働的な学び85% 受容と共感90% 体力向上85%  
・学びの質に変容がみられる。体力向上は2学期のからの個々の取組がポイント。
- (2) 教員 単元開発97% 心の涵養91% 体力向上88%  
・2単元以上の開発ができた。学級の枠を超えた学年の取組の成果。体育の学習化。
- (3) 保護者・地域  
・「交通安全・挨拶週間」264名、「体力調査」287名、その他の学習ボランティア

3 教育目標（長期目標）

- ◎輝くひとみ（意欲的に学び、実践する子ども） ○優しい笑顔（思いやりのある子ども）
- 健やかな体（心も体も元気な子） ○つながる心（地域を愛する子ども）

4 目指す学校像（校長指針）

「今日の学びを大切に、明日の学びを楽しみにできる学校」

5 目指す児童像（短期目標・令和6年度目標）

自ら考え抜き、協働し、自立的に学ぶ子ども  
～ アクティブ・ラーナーへ 3年間の挑戦（序章終幕）～

6 組織目標

「子どもの文脈で学習できる単元開発」（2年目）

【看板】 自立した学び舎 三小スタイル  
～ファースト・モデルの完成～

7 運営方針

子どもの自立した学びを確立するために、単元開発と保護者、地域との協働を深め、各学期の目的を明確にし、意図的、計画的に子どもの資質・能力を育む「ファースト・モデル」を完成させる。

「ファースト・モデル（初期型スタイル）」

(1) 目的

子ども一人一人一人の自立した学びの確立を目指して（複数年計画）

(2) 学期の目的と方法

【1学期】

- (目的) ①子ども一人一人を学年で理解し、単元開発により子どもの文脈で学習できるようにする。  
②子ども一人一人の成果を保護者と共有し、2学期以降の自立した学びにいかす。  
③子ども一人一人の自立した学びの確立に向けて、保護者、地域との連携を強化する。
- (方法) ①学年担任制により、個々の子どもの実態をとらえ、協働で研究し単元開発を行う。  
②1学期のねらい（4者面談シート）をもって、学籍上担任、学年担任、子ども、保護者の1学期末に4者面談を行う。  
③夏休みの自由研究（1～3年）、フリースタイル総合（4年～6年）での単元開発により、保護者、地域の学習ボランティアを有効活用する。

【2学期】

- (目的) ①1学期の単元開発をいかし、校舎環境等の強みをいかし、更なる単元開発により、子どもの文脈で学習できるようにする。（学び合い学習、ハイブリッド学習を取り入れて）  
②子ども一人一人の伸びを保護者と共有し、3学期以降の自立した学びにいかす。  
③子ども一人一人の自立した学びの確立に向けて、保護者、地域との連携を強化する。
- (方法) ①学年担任制により、個々の子どもの実態をとらえ、協働で研究し単元開発を行う。  
②2学期のねらい（4者面談シート）をもって、学籍上担任、学年担任、子ども、保護者の2学期末に4者面談を行う。  
③運動会を含めた単元開発による成果を保護者、地域等に公開する。（9月の学校公開、10月の運動会、11月の研究発表会）

【3学期】

- (目的) ①1, 2学期に培った力で、自立した学習に取り組み、子どもが自己の学びの改善を実感できるようにする。  
②子どもの1年間の学びについて振り返り、来年度の学びにつなげる。  
③教科で身に付けた力を学校行事の場で発揮し、保護者、地域にその成果を共有する。
- (方法) ①重点的にマイプラン学習を展開する。  
②3学期の学年保護者会、あゆみの所見等で保護者に成長を示す。  
③教科で身に付けた力を学校行事にいかす最後の行事である展覧会を公開する。

上記のように、1、2学期に学年担任制による協働での探究型の単元開発に重点を置き、学期末に個々の状況を本人、保護者と確認して、次の学期にいかすようにする。

3学期は、1、2学期で身に付けた力で、自立した学習がどこまでできるかチャレンジできるように全学年、マイプラン学習（単元内自由進度学習）の開発を行う。

また、各教科で身に付けた汎用性のある力を大きな学校行事の場で発揮できるように、2学期は運動会、3学期は展覧会とし、この期間は学校行事に専念する。

このようにメリハリのある単元開発をすることで、子どもも教員も各学期の取組の重点が明確となり、働き方改革にもつながる。

1・2学期に探究的な単元開発。3学期に習得的なマイプラン学習の単元開発。運動会、展覧会は行事に専念。この1年間の自立した学びに迫る単元開発の取り組みを「ファースト・モデル」とする。

## 8 経営方針を具現化する3部会の重点方針

### (1) 学園研＝校内研 「児童・生徒の自立した学びを目指して」

①学園研の研究主題のもと、組織目標である「子どもの文脈で学習できる単元開発」を本校の校内の研究主題とし、「必要感をもたせる学習環境づくりを通して」を副主題として、学年協働での開発を更に進める。11月にその成果を発表する。

②学年担任制のよさをいかし、学年で子ども一人一人のよさを見付け、伸ばすことができるように学級の枠を超えた学習形態や本校の校舎環境のよさを更に活用して各教科の単元開発を行う。

③一人一人に問いをもたせ、必然的な対話を生むために多様な考えが引き出せる問題を提示し、考えを分化・対立、矛盾・困惑等の知的葛藤から個の文脈で学習ができる単元開発を行う。

### (2) 体力向上全体計画（2年次）

①令和5年度に開発した体育の全単元をもとに、更なる学習化の探究化を図る。

②保護者、地域との協働による体力調査新システムのマイナーチェンジを図り、令和5年度のよさを反映させた計画で実施する。

③個々の子どもが体力調査ファイルを活用し、1年取り組んだ結果をもとに振り返り、自己の変化に気づき生活習慣と運動習慣における目標をもち、具体的な取組を実践することの大切さを実感する。3年間で確実に体力の向上をコミットする本計画の2年次を進行する。

### (3) 各教科・領域で身に付けた力を特活の場でいかす（個の輝きと全体の輝き）

①各教科・領域の単元開発で身に付けた力を汎用させて、特活の場（学級会活動、児童会活動、学校行事）でいかせるように、各活動のねらいを重点化する。

②各教科・領域と特活のカリキュラム・マネジメントを行い、教科のねらいに基づいた学習活動を単元計画の中に盛り込んでいく。

③大きな学校行事の在り方について、個に応じた多様な取組により、個をいかし、全体の成果に反映できるような場の設定を検討する。

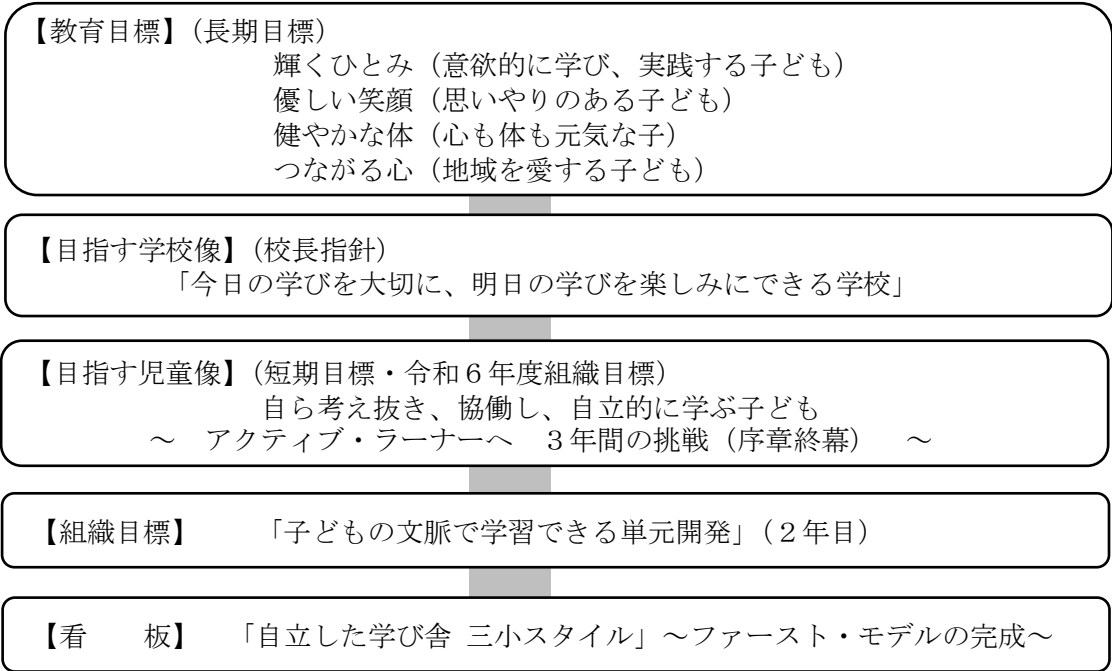
## 9 経営方針を具現化するインフラパートの重点方針

### (4) 改定校務分掌によるスクラップ&ビルド

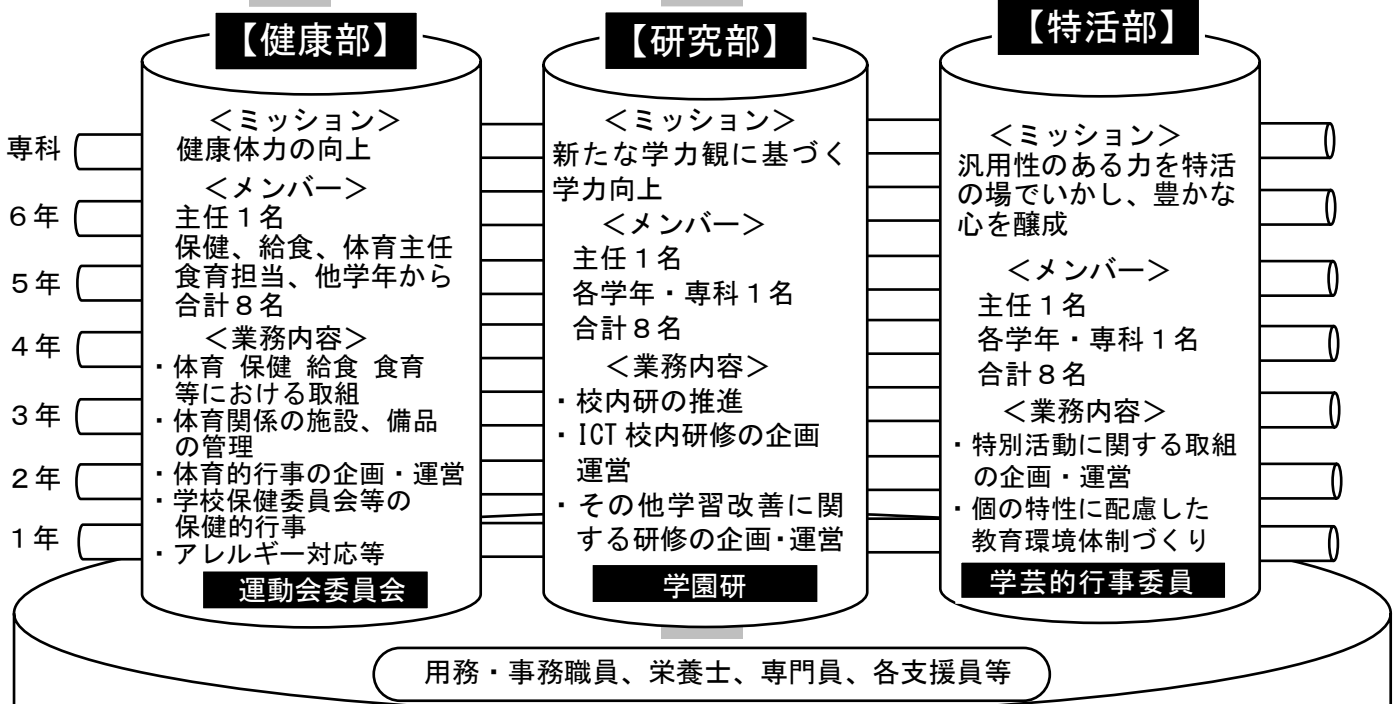
①インフラパート（教務、生活、支援、事務）のマネジメント強化と事務執行の効率化を図る。

②校務分掌組織目標、スローガンのもと更なる組織的、計画的な運営強化と建設的なスクラップとビルドを図る。（業務内容や会議等の精選）

③各校務分掌と保護者・地域との連携強化により、単元開発や取組にいかす。

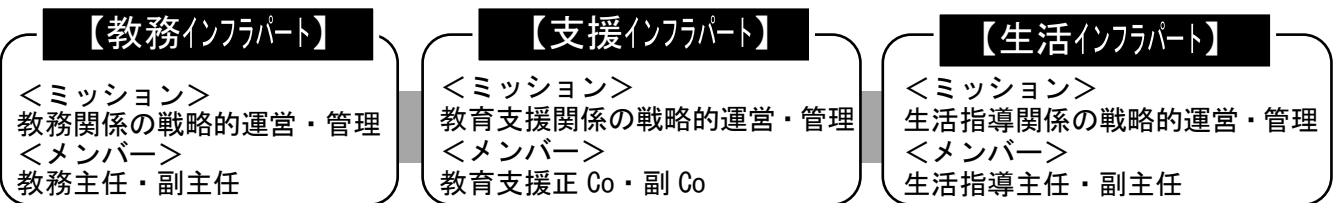


**（実行組織）**



（常設委員会）・企画会 ・校内委員会＜通級、いじめ、生活統合＞（時期的臨時委員会）・卒業対策委員会・入学対策委員会

**（運営組織）インフラパート**



※教務主任、生活指導主任、教育支援正Coはインフラパートで連携するため3部会には所属しない。

**【事務インフラパート】**

教務、生活、総務、教科等、部内で検討する必要のない事務的な仕事を精査し、全教職員で分担する。  
 ※インフラパートの正・副主任はマネジメント事務に専念するため分担しない。